

1. 新商品開発・販路開拓

ひゅうが
【宮崎県日向市】

建設会社が設立したひむか農園は、地域のへべす農家と協力して、江戸時代から栽培される日向市特産の『へべす』を生産拡大。へべす農家の所得向上を目指し、新商品の開発に取り組む。

事業概要

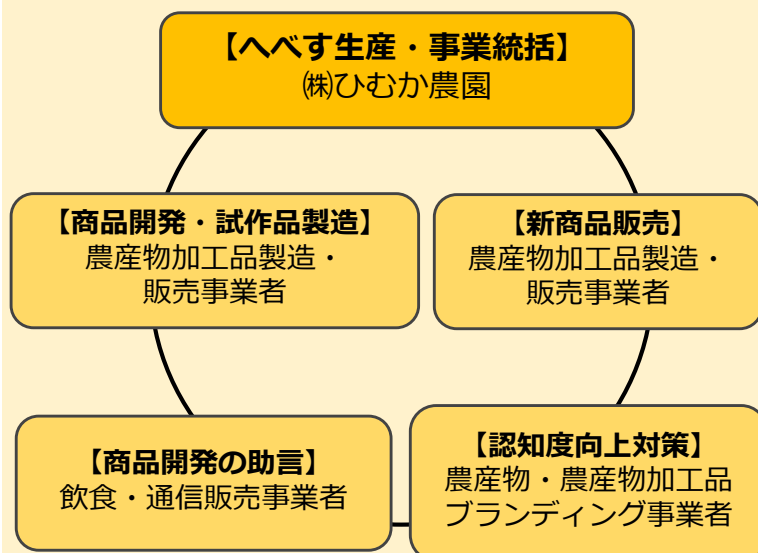
【事業実施主体】 株式会社ひむか農園
(へべす農家)

【事業実施年度】 令和4、5年度

【支援内容】 商品企画・製造委託、甘味成分等の分析、展示商談会の出展

【事業の連携体制】

へべす活用促進グループ



へべすを活用した新商品 2 種

- ①食材のおいしさを最高に引き出す
まろやかポン酢
- ②やわらかな酸味と爽やかな香りの
へべすドレッシング



地元物産館でのドレッシング販売

地元物産館ほか、ECサイト、ふるさと納税など多方面での販売を展開中。現在、関東・関西エリアの飲食チェーンの販路開拓を進めるほか、輸出への展開も検討。

取組成果

【へべすドレッシングの売上高】 0 千円 (令和4年) → 955千円(令和5年)

【へべすの生産規模】 2 ha (令和4年) → 7 ha (令和5年)

2. 多様な地域資源を新分野へ活用

【愛知県田原市】

田原市の田や家畜等の農村資源を活用しながら、『育てて食べる』ことを体験し、命の大切さを楽しみながら学ぶスタディファームステイ事業を開発・展開。

事業概要

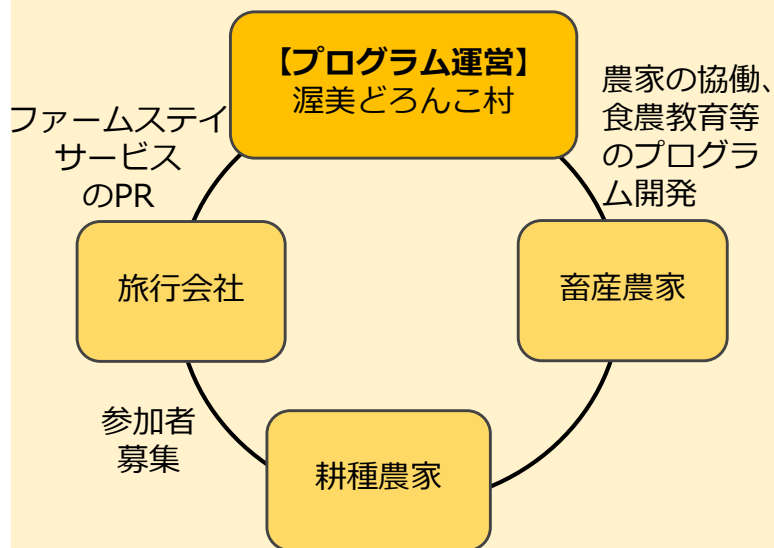
【事業実施主体】 合同会社渥美どろんこ村
(農業体験の提供事業)

【事業実施年度】 令和5年度

【支援内容】 教材開発、PR資料作成、WEBデザイン

【事業の連携体制】

地球1個分の暮らしネットワーク



食と農に関心を持つ機会を提供

制作した学習教材（絵本ノート、デジタル絵本、動画）を用いて、地域内の農家等と協働して食や農業に触れる体験活動に取り組む。



収穫体験の様子

豚、鶏、やぎの餌やり、野菜収穫、食事作りなどを体験するスタディファームステイサービスを提供。

取組成果

- 【来園者（宿泊、日帰り）】 114人（令和5年） → 276人（令和6年11月末）
- 【スタディファーム売上高】 1,026千円（令和5年） → 2,484千円（令和6年）
- ◆学習教材の作成により、ビジュアルにわかりやすく伝えることができたようになった。
- ◆宿泊だけでなく、日帰りファームステイの集客の増加が図られた。
- ◆観光事業者と連携した広報の展開により、更なる参加者の受け入れを強化する。

※スタディファームステイ・・・主に小中高生を対象とする、田畑や家畜等の農村資源を活かした農村体験学習

2. 多様な地域資源を新分野へ活用

【静岡県静岡市】

茶ストロノミーツーリズム（茶×ガストロノミー×ツーリズム）をテーマに、観光客と茶農家のコミュニケーションを図る新サービスを開発。お茶産業の振興と担い手不足の解消を目指す。

事業概要

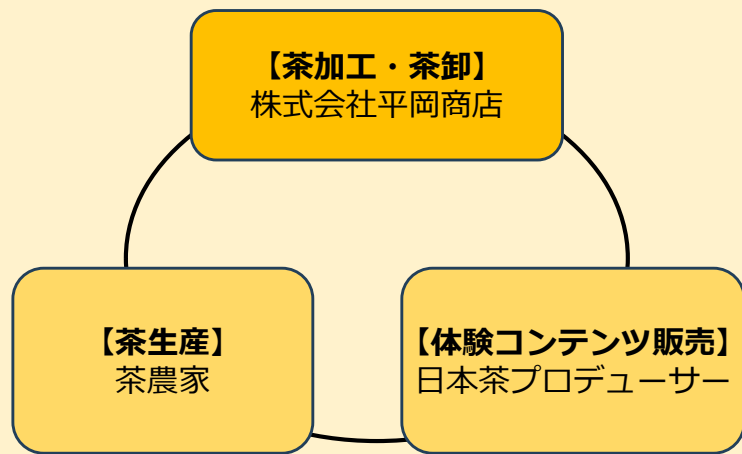
【事業実施主体】 株式会社平岡商店
（茶の生産・販売事業者）

【事業実施年度】 令和4年度

【支援内容】 ティーペアリングメニューの開発、
消費者評価会の開催

【事業の連携体制】

茶ストロノミーコンソーシアム



料理×お茶

茶ストロノミーツーリズムの体験モデルツアー、地域料理人と連携した県産の『発酵料理×茶』などのティーペアリング商品を開発。



サウナ×お茶

水で抽出し、香りを引き立たせたお茶を焼き石に入れることで、独創的なサウナを楽しむ。

取組成果

【ツーリズムの売上高】 0円（令和4年度） → 239千円（令和5年度）

【交流人口】 0人（令和4年度） → 38人（令和5年度）

◆茶ストロノミーツーリズム、ティーペアリングをインバウンド向けブラッシュアップして、日本の食文化発信を狙う。

※ティーペアリング・・・料理とお茶を組み合わせ、お互いの味や香りを引き立てあうように楽しむこと